

# 新産業の創出・成長産業の育成

## 「新産業の創出・成長産業の育成」にとりくむ意義

- ・新産業を起し、成長産業を育成することで、新たな取引先等が生まれ市内経済が活性化する。
- ・既存の業態から新たな分野への参入や新技術・企業独自の製品開発を支援をする事で新たな収入源を得る。
- ・新たな価値の創造により、製造業等の価格競争からの脱出が図れる。
- ・新産業の創出や成長産業の育成により、新たな雇用が生まれる。
- ・異業種が連携し新産業や新技術に進出する事で、高付加価値の製品開発に繋がり、市内に新たな経済効果が生まれる。

## 現状と課題

- ・製造品出荷額はバブル崩壊以降低迷しており、これを回復させるには今までにない技術や製品開発が必要である。
- ・新産業の創出には、前橋市が持つ「ものづくり技術」を集合させ、新分野進出に向けた技術を獲得する必要がある。
- ・新製品開発のきっかけや新産業分野参入のためには業種間を超えた情報共有の場が必要であるが、その場がない。
- ・新産業には農業分野、医療産業(先端分野、ローテク分野等のニッチ市場)など市内企業が参入できる可能性があるが、必要な情報や現場のニーズが充分には伝えられていない。
- ・群馬県が、「がん治療技術地域活性化総合特区」の指定を受けたので、それを本市産業の成長に活かす必要がある。
- ・医療分野の現状と課題が一般に知られておらず、許認可等のハードルが高い。

## 施策の方針(基本的な方向)

- ・企業独自技術獲得のために産学官連携を推進
- ・前橋市に存在している地域特性を活かし医工連携(ものづくり技術、重粒子線施設)、農商工連携(1次産業者、食品製造業者が多い)を推進
- ・異業種間の交流を促進
- ・「がん治療技術地域活性化総合特区」に関連した施策を推進

## 具体的な取組み

(現在行っているもの)

- ・企業独自の製品・新技術開発支援(新製品・新技術開発費推進補助金・前橋市ぐんま新技術新製品開発推進補助金)
- ・産学連携した新製品・新技術の開発支援(公募型共同研究費補助金・産学官連携新製品・新技術開発推進補助金)
- ・企業へ研究者のシーズ紹介、情報交換会、異業種連携支援(産学官金連帯フェスタ・異業種交流グループ補助金)
- ・新製品の販路開拓支援(国際見本市等出展補助金)
- ・中小企業研究開発資金、起業家独立開業支援資金(Bタイプ:分社化)

(これから取組むもの)

- ・新技術・新製品開発補助金の拡充
- ・異業種が連携し、前橋の「ものづくり技術」を活かし異分野へ進出する団体へ補助。(効果:高付加価値製品の開発、経営ノウハウの共有、人材育成のノウハウなどの経験を共有化できる)
- ・次世代を担う経営者等が交流できる場の創出。(効果:異業種間、同業種間の情報共有)
- ・医工連携に繋がるような情報提供の場を創出。(医療現場ニーズ、ニッチ分野参入可否等)
- ・市、学術研究機関等と情報共有できるネットワークを構築し、迅速で的確な企業支援。
- ・農(1次産業)商工(2,3次産業)の連携に向けたマッチングの開催
- ・「がん治療技術地域活性化総合特区」による効果を最大限市内企業へ行き渡るよう群馬県と連携。
- ・医療製造分野進出のために必要となる許認可等の取得について支援

## 計画終了(3ヶ年)までの目標

- ・産学官金連帯フェスタ参加企業人数(過去5年間平均57.8人)をH28年度には75人にする。(30%増)
- ・農商工連携セミナーの開催数 目標(H28年度)年2回開催
- ・公募型共同研究補助金における出願件数 現在4件 目標(H28年度までに)12件
- ・国際見本市等出展補助金利用件数 現在(H24年度20件) 目標(H28年度)25件
- ・新製品等開発補助金における製品化数(新技術含)(H24年度4件) 目標12件